

「音楽における創造的思考力」と即興的創作演奏の関連(2) ーヤマハ音楽教室在籍児童の創造的思考力と創作作品の相関分析を中心ー

日本音楽教育学会第44回大会
2013年10月12日
渚智佳・酒井勇也・小川純一・
馬田一郎

1. 研究の経緯

本研究は、音楽における創造的思考力と鍵盤での楽曲創作との関連性を調査するもので、本学会第43回大会にて発表した「『音楽における創造的思考力』と即興的創作演奏の関連ーヤマハ音楽教室在籍児童を対象とした調査を通してー」の継続研究である。

昨年度の研究発表では、ヤマハ音楽教室に在籍し日常的に音楽創作を学習している小学校第4学年の児童20名を対象として、個別にMCTM1)とピアノによる即興的創作演奏課題2)を実施して(第1回調査)、創造的思考力と即興的創作演奏の作品3)の関係性を検証した。その結果、MCTMの総合結果と即興的創作演奏の作品の総合評価には、有意な相関がみられなかった($r=.434$, $p=.072$)。一方、MCTMの総合結果と即興的創作演奏の作品の要素別評価に関しては、有意な相関がみられた。このことから、即興的創作演奏に関しては、音楽的要素に関するアイデアの魅力、およびその広げ方や扱い方の多様性などに関連する思考プロセスにおいても、音楽における創造的思考力が反映されている可能性が示唆された。しかし、相関分析により信頼しうる結果を得るには、実験参加者数が十分とはいえない点が課題として残された(渚・酒井・小川 2012)。そこで、第1回調査と同じ条件で新たに20名の児童を対象に同様の調査を追加実施し(第2回調査)、合計40名の結果を統計的に分析することによって、より詳細に創造的思考力と即興的創作演奏の作品の関係性を検証することとした。

2. 研究方法

第1回調査と第2回調査の計40名のデータをもとに、MCTMの結果と即興的創作演奏の作品の評価結果に関して、それぞれの内的相関や、評価者間信頼性、両尺度の測定結果の相関などを分析し、その結果から、音楽における創造的思考力と即興的創作演奏の関連について考察する。あわせて、児童の即興的創作演奏のプロセスや作品についても検討する。

3. 結果

計40名のデータに関しても、前回と同様に、高い評価者間信頼性が得られた。MCTMの総合結果や項目別の結果と、即興的創作演奏における要素別評価(旋律、リズム、音域)との間に有意な正の相関がみられた。このことから、旋律やリズム、音域といった要素の扱いに、音楽における創造的思考力が影響している可能性が示唆された。

<注>

1) Peter Websterが開発した「音楽における創造的思考力テストMeasure of Creative Thinking in Music」(Webster 1994)を指す。音楽の専門的な学習を必要としない汎用性のあるテストで、音楽的規模(ME)、音楽的柔軟性(MF)、音楽的独自性(MO)、音楽的統語(MS)の4項目から児童の音楽における創造的思考力の測定を試みたものである。

2) 短時間で作品の原型を創作させ、即興演奏によって完成させる課題を指す。

3) 即興的創作演奏の作品に関しては、実験の計画・実施にかかわっていない5名のヤマハ音楽教室講師が、100点満点での主観評価(総合評価)と、音楽的要素における魅力や全体の印象に関する11項目の5段階評価(要素別評価)をおこなった。

<参考文献>

・渚智佳・酒井勇也・小川純一(2012)「『音楽における創造的思考力』と即興的創作演奏の関連ーヤマハ音楽教室在籍児童を対象とした調査を通してー」『日本音楽教育学会第43回大会プログラム』p. 92.

・Webster, P. R. (1994). Measure of Creative Thinking in Music-II: Administrative Guidelines. Unpublished manuscript, Northwestern University, Evanston, IL.